



建物は天理教馬町宣教所。比較的被害は少ないが、塀には弾痕状の穴が数多く見られる。小さな貼り紙には「罹災者応急住宅増設受付所 大和大路通馬町角 東山区貸家組合」とある。歩道には瓦礫がまとめられている。入口にたたずむ子どもは誰だろう。

道路の傾斜や郵便ポストの位置から、今西酒店付近と推定される写真。地域の住民の協力のもと、障子戸や格子戸ははずされ、屋根瓦もすべてまとめられている。補修作業も進められている。歩道に散乱する瓦礫の中には「聖護院八ツ橋」の丸い看板が見える。

逆市が刻まれたお地藏さんの祠があったところ。故大野孝司さんの説明では、今西酒店の路地を南に入った東側付近の民家とする。北側から爆風を受けたのだろう、建物は大きく南に傾いている。破損した角材に紙が貼られているが、判読できなかった。

詳細な場所は不明であるが、写真の奥には東山の稜線がわずかに見えている。大路東入三丁目下上馬町」とある。写真の右側は切土のノリ面のようで、一段高く見える。がれきの木材が放射状に倒れて散乱し、中央がくぼんでいるようにも見えることから、直撃弾を受けた現場かもしれない。

仁丹町名表示板には「下京区渋谷通東」である。大路東入三丁目下上馬町」とある。渋谷通北側に日光が強く当たるのは、向かい側の建物が倒壊したため、道には瓦礫があふれ、大八車も連なり、足の踏み場もない。立ち話するは復旧作業合間のモンペ姿の女性たち。



写真奥の大きな建物は、当時の修道国民学校（現在の京都市立東山総合支援学校）で、校舎の東側には道沿いに少なくとも5軒の民家があった。故大野孝司さんの説明では、現場は当時の市田家・清水家があったところで、爆弾が落下して全焼した跡とする。



10-Aは全焼直後、10-Bは鎮火後を撮影したもの。屋根の形や電柱、樹木が一致していることから同じ場所だとわかる。故大野孝司さんの説明には、当時の浜田家の前部が倒壊した後、都市ガスに引火して全焼したとある。瓦礫の上には杳然と立ち尽くす女性。



9-A・Bともに被弾した京都女子専門学校・第三小松寮の南寮(新館)を撮影したもの。中央部が吹き飛んでいることから被害の大きさが見てとれる。寄宿していた120名の内5名が生き埋めとなったが、負傷するも全員救出された。幸いなことに死者は出なかった。



木造2階建の京都幼稚園。園庭に落ちた爆弾で西側の園舎が大破した。7はその北西部分、8-Aはさらに近づいたもの。8-Bは園内から捉えた新史料。壁は吹き飛び、外の電柱や民家が透けて見える。別棟の職員室と小使部屋は倒壊したという。緑枠の写真は空襲前の園舎と園庭。立ち木の位置もよくわかる。